

植物保護学特論Ⅰ (2単位)

担当者氏名 岡島秀治・小島弘昭・長島孝行

◆学習・教育目標

多様な昆虫類は特に農業と深いかかわりを持っている。古くから農業害虫として知られる種も多く、その制御は生産性の向上に欠かせない。また、その反面、有用昆虫も多く知られる。天敵として利用される昆虫も少なくない。応用昆虫学特論は、昆虫学分野の研究者を目指す院生を対象として行う専門教育で、応用分野のみならず基礎分野をも含めて、幅広く教授する。特に、基礎昆虫学の知識を教授した上で、農業上有害な昆虫の防除、有益な昆虫の利用、あるいは分類や生理・生態、分布といった生物本来の基本的課題に取り組むための知識を教授する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

昆虫	害虫管理	資源利用と探索	昆虫利用学
昆虫生態学	昆虫生理学	昆虫形態学	昆虫分類学

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方などについて説明	導入
2	基礎昆虫学1(2週～4週)	昆虫分類学の概要に関して講義する。 特に生物多様性の認識において、昆虫分類学は重要である。	応用昆虫学を学ぶ上で必要な基礎昆虫学の知識を教授。
3	基礎昆虫学2(5週～8週)	昆虫形態学・昆虫生態学・昆虫生理学の概要に関して講義する。	応用昆虫学を学ぶ上で必要な基礎昆虫学の知識を教授。
4	応用昆虫学1(9週～11週)	総合的害虫管理・総合的生物多様性管理・天敵昆虫学・最近の化学的防除などを中心に害虫管理に関して講義する。	安全で環境負荷の少ない、農業害虫の管理について教授。
5	応用昆虫学2(12週～14週)	昆虫利用学の概要・昆虫の研究法などに関して講義する。	昆虫の資源としての活用、および昆虫の研究法について教授。
6	総括・総合討論など(15週)	授業の総括をするとともに、総合討論・口述試験などを実施する。	まとめと評価

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

講義中に配布する

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

必要が生じたときに紹介する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

英文専門書の翻訳などの課題・レポート・口述試験などを均等に評価する

◆その他受講上の注意事項

英語で書かれた教科書（資料）を用い、内容のみならず、英語の読解力を養うことをも目標としたい。そのため、講義の前になんかの量の英文を読みこなし予習しておく必要があり、相当時間をそれに費やす覚悟が必要である。